

日産自動車株式会社

# CO<sub>2</sub>削減にむけて

## 革新を継続



日産自動車株式会社  
専務執行役員  
チーフサステナビリティオフィサー 川口 均

### 着実に効果を上げている 活動を評価

日産自動車株式会社は「人とクルマと自然の共生」という環境理念のもと企業活動から排出されるCO<sub>2</sub>削減にとどまらず、商品に対しても2050年までに新車のCO<sub>2</sub>排出量を2000年比で90%削減するという長期ビジョンを10年前に掲げ活動している。また2015年度は、国内外の工場を対象としたエネルギー効率向上、省エネルギー診断専門チーム、[NESCO (Nissan Energy Saving Collaboration)] による省エネ対策のさらなる進化、再生可能エネルギー導入の拡大などの活動が効果を上げている。

さらに2016年9月には「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス (DJSI)」において、世界で最も持続可能性のある企業である「ワールド・インデックス」の構成銘柄に選定された。今回はそういった実績の他、透明性の高い情報開示を行ったことや「日産リーフ」を始めとしたゼロ・エミッション車の普及や、クルマ

マから家庭へ電力を供給する「Leaf Home」、使用済みバッテリーを再利用した再生可能エネルギーの導入、他社や自治体との連携による充電器普及など包括的なゼロ・エミッション社会構築に向けた活動が評価された。

### 業界を超えて 自治体や政府と連携

CDP2016ジャパン報告会では川口均専務執行役員が登壇し挨拶した。そこで同氏は3年連続となるAリスト選定に対して感謝の意を表しながら中期環境行動計画「ニッサン・グリーンプログラム2016 (NGP2016)」や2050年への長期目標達成に対して活動を継続していること。また2010年より発売した「日産リーフ」が世界で最も販売実績を挙げた電気自動車となったことを紹介。そういった企業活動のみならず、2012年にはサプライヤー調査を実施し、大きな枠組みの中でCO<sub>2</sub>排出量の削減を進めると述べた。そして「業界の皆様や政府、自治体との連携を今以上に強化し、今後もCO<sub>2</sub>削減にむけて革新を続けていくことが使命であると認識しています。」と挨拶を結んだ。